

国境管理政策と越境の持つ社会経済的意味—シンガポール - マレーシア陸路国境の事例—
**Border Management Policy and Socio-economical Meanings of Border Crossing:
The Case of the Singapore-Malaysia Land Border**

石井由香 (立命館アジア太平洋大学)
ISHII Yuka (Ritsumeikan Asia Pacific University)

キーワード：国境管理、越境、植民地経験、エスニックなつながり、経済開発

Key Words: border management, border crossing, colonial experience, ethnic ties, economic development

国境管理は、グローバリゼーション研究、移民研究において注目されるテーマである。発展途上国にとって国境管理は自国の国家建設および国家統一と関わる重要な問題であり、中央政府は国家の威信を確立し維持するためにも、管理をできる限り忠実に行おうとしてきた。しかしその一方で、植民地経験を持つ国家の国境線の多くは、独自の歴史や文化分布と相違して設定されており、国境管理は多様な民族の多様な移動の形態を想定したものになっている。

また、これまで国家の専権事項とされてきた移民受入政策および国境管理は、グローバリゼーションの時代において、地域主義や地域化の進展による影響を受け始めている。越境する地域としてのまとまり、アイデンティティの形成と国境管理との関係が問われ始めているのである。例えばサッセンは、グローバルな経済システムや超国家的組織との関係における「移民受入政策の事実上の超国家化」を指摘している(Sassen 1999)。チェンによる、アジア太平洋地域において、成長の三角地帯などの国境を越えるサブリージョンないし地域化の進展が、国境の壁を低くし、新たなトランスナショナル・スペースを作りだしているといった指摘(Chen 2005)は、東南アジアの状況を考える場合にも重要である。

本報告で重視するのは、こういった状況のなかで起こっている国境管理政策と越境の持つ社会経済的意味の相互作用である。国民国家は必然的に国民とよそものの線引きを行う。そして、安全保障と国家にとっての経済的利益を考慮して越境者を選別し、人々の越境行為に制限をかける。これが国境管理政策である。しかし、そもそも国民とよそものの区別が難しい社会文化状況が国境地域にあれば、この点に関する配慮を制度的に行わざるを得ない。また、二つの国があれば、その間には経済格差がある。東南アジアの場合、国家間の経済格差が相対的に大きいことは、この地域における越境に経済的意味を付与している。多様なアクターにとって、越境は経済的利益を売るための行為である。国境を管理する国家は、多様なアクターにとっての越境の意味と目的に対し、自国の国内政治を安定させ、国家としての経済上の利益を得るためにこれに即した対応を迫られる。経済開発の進展、コミュニケーション手段の発達を基盤として、国境管理政策に影響を及ぼすアクターは、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルと、より重層的になる。それぞれのアクターの相互作用によって、国境管理政策と越境行為に対する国家の政策は変容していく。

本報告においてとりあげるシンガポール - マレーシア陸路国境は、上記の構造と動態を考察する上で、非常に興味深い事例である。両国とも英植民地となり、独立の過程で一度

は一つの国になったが、その後に分離し、別の国になったという歴史を持つ。国境そのものが人為的に引かれたものであるが、この両国の国境において、人とモノの移動は独立当初から管理されるべきものであると同時に、できるだけ現地居住者にとっての移動の自由度が高められるべきものであった。植民地時代にも存在していた経済的相互関係、エスニックなつながり、家族・親族の国境を越える居住状況が、この柔軟な国境管理政策の論理を生み出しており、この論理は今にいたるまで両国の国境管理の基本原則となっている。

独立後、両国はそれぞれに経済開発を進め、シンガポールとそれに隣接するマレーシアのジョホール州のサブリージョンとしての経済的な相互関係を、よりいっそう強めるにいたっている。これに伴い、人の双方向の移動も日常的に行われている。この移動を支えているのが、道路や鉄道などの移動のためのインフラ整備、バスなどの公共交通機関の充実、自家用車の普及である。国家建設、経済発展は、国家単位のものではあるが、より多くの人が、より手軽に移動できる基盤を作り出すものであり、国家の枠を意識させながらも、国境を越える移動の自由をもたらしものでもあった。移動手段の近代化は、隣国との連携により、国境を越える移動を促進する要因となっているのである。

そして、国境管理技術は、国境管理を厳密に、負担の少ないやり方で行うことを可能にするのと同時に、より自由な移動を促進する目的で導入されている。この両国の国境管理施設は近代的な建物と設備を持ち、国家による管理の象徴であると同時に、近代的な技術による効率的な移民管理の象徴でもあるということができよう。この利便性は、両国で勤務する外国人材や観光客も享受することができるものであり、両国が受け入れに力を入れている人々の流入を促進する目的も持っている。その一方で、国家にとって危険であると考えられる者、役に立たないと考えられるよそのものの排除を、一般の移動者からはより見えにくい形で行うやり方であるとも言えよう。

両国における経済開発、近代化の進展は、移動の目的の多様化を引き起こしている。シンガポールからマレーシアへの移動の目的は主に安価な買い物や食事であり、マレーシアからシンガポールへの移動の目的はより高度な教育や仕事であった。ところが、それぞれの国の経済発展の進展に伴い、シンガポール人がジョホール、マレーシアに求めるものは、単なる安価な物品から、従来ならば自国内で求めていたもの、またより高度なサービスへと拡大している。この状況に対して、マレーシア、シンガポール両国は引き締めを行う一方で、場合に応じて柔軟な政策的な対応を行っている。国境を越える移動圏、生活圏の広がり、両国の政策・制度による抑制、追認のあり方も考察を要する点である。

マレーシア - シンガポール陸路国境は、国境が、国家以外のアクターによって利用されると同時に、国家によっても利用される政治・経済・社会的実体であることを示す、非常に興味深い事例であると言えよう。この意味で、国家の役割は弱体化するのではなく、役割が変化していることを指摘できる。マレーシア - シンガポール陸路国境の事例から、この点を考える上での枠組みを提示したい。

【引用文献】

Chen, Xiangming, 2005, *As Borders Bend: Transnational Spaces on the Pacific Rim*, Lanham: Rowan and Littlefield.

Sassen, Saskia, 1999, *Globalization and Its Discontents*, New York: The New Press.